



古今俳諧明題集

冬之部

稱



古今俳諧の題集冬郊目録

更衣 <small>コロモカヘ</small>	初葉	閑煖茶 <small>ロウキキリチキリ</small>	切	初	小春 <small>コハル</small>	後初玉
雪 <small>シゲレ</small>	後二玉	冬 <small>フエノヒ</small>	六	冬月 <small>フエノキ</small>	六	
木敷 <small>コガラシ</small>	後七玉	冬隠 <small>フエノモリ</small>	八	火 <small>ヒ</small>	後八玉	
炕 <small>コタツ</small>	九	種火 <small>ウツヒ</small>	十一	槽 <small>ホ</small>	十	
炭蜜 <small>スミカミ</small>	十	舌猪 <small>シノコ</small>	十一	残菊 <small>ザンキク</small>	十一	
達磨忌 <small>ダルマキ</small>	十一	十束 <small>ジウバ</small>	後十一玉	足 <small>ヒ</small>	後十二玉	
紙衣 <small>カシ</small>	十二	紙名 <small>カシ</small>	後十二玉	願 <small>ガン</small>	十四	
齋 <small>イハヒ</small>	十四	水鳥 <small>ミヅトリ</small>	十四	紫 <small>ムラサキ</small>	十四	
冬 <small>カモ</small>	十四	水 <small>ミヅ</small>	十五	鶺鴒 <small>セウリン</small>	十六	
冬 <small>タカノ</small>	十六	猿 <small>カリ</small>	十六	雀 <small>スズメ</small>	十七	

古今俳諧明題集卷之四

目録一



蝦蟇 十七
 河豚魚 十八
 桔梗花 二十
 菜菔根 二十一
 麥薈 二十二
 野苧 二十三
 金剛纂 二十四
 赤芍藥 二十五
 柝柳 二十六
 冬玉梅 二十七
 雪 二十八
 沙嘴 十七
 魚鱗子 十八
 桔梗 二十
 荳蔻根 二十一
 紫葳花 二十二
 紫梅 二十三
 柝把 二十四
 藤葉 二十五
 寒 二十六
 鷹賣 二十七
 鹿 二十八
 麵條魚 十七
 柝野 十九
 葛麥刈 二十
 生薑根 二十一
 冬牡丹 二十二
 紫花 二十三
 兔箭 二十四
 冬木 二十五
 冬玉 二十六
 冬 二十七
 沙拉 二十八

冰 二十一
 神樂 廿四
 神鼓 廿五
 水仙 廿六
 綠梅 廿七
 字之志佛 廿八
 希季 廿九
 茶 三十
 茶 三十一
 茶 三十二
 茶 三十三
 茶 三十四
 茶 三十五
 茶 三十六
 茶 三十七
 茶 三十八
 茶 三十九
 茶 四十
 茶 四十一
 茶 四十二
 茶 四十三
 茶 四十四
 茶 四十五
 茶 四十六
 茶 四十七
 茶 四十八
 茶 四十九
 茶 五十
 茶 五十一
 茶 五十二
 茶 五十三
 茶 五十四
 茶 五十五
 茶 五十六
 茶 五十七
 茶 五十八
 茶 五十九
 茶 六十
 茶 六十一
 茶 六十二
 茶 六十三
 茶 六十四
 茶 六十五
 茶 六十六
 茶 六十七
 茶 六十八
 茶 六十九
 茶 七十
 茶 七十一
 茶 七十二
 茶 七十三
 茶 七十四
 茶 七十五
 茶 七十六
 茶 七十七
 茶 七十八
 茶 七十九
 茶 八十
 茶 八十一
 茶 八十二
 茶 八十三
 茶 八十四
 茶 八十五
 茶 八十六
 茶 八十七
 茶 八十八
 茶 八十九
 茶 九十
 茶 九十一
 茶 九十二
 茶 九十三
 茶 九十四
 茶 九十五
 茶 九十六
 茶 九十七
 茶 九十八
 茶 九十九
 茶 一百

古今行狀月頁集卷之四 目録二

古今俳諧明題集冬部

更衣 ころも

落りぬと脱くハいやしお語もかへ
 砧くゝ壺に着せしりころもくへ
 草ハ皆除け脱くし語もかへ
 雪うまー袖へくゝ侍や文衣
 一嵐 佳旭 似竹 水雁

閑憶らひ葉口切き時

憶ひくたや一掃寒くかー未ま里
 憶毎や沢中も雪のうげなくー
 憶家や雪は震ひもおりー語も或
 安里 素玲 麦舟

懐ひ〜さや掃出さめハ梅さ〜
ろひ〜
に切やかさ〜
懐宇や〜

一嵐
江戸入
湖十
青蓋

小春 るこも

年時中ヒルに一時む〜
鶴コウの羽ハ枯カ葉エ乾シ〜
詔ミコトノコト飛トぶフ〜
山ヤマ人にニ遊ユのノああ〜
横ヨコ本ノにニ又マタ〜

理然
涼体
一音
瀾城
五綾

俯カチツキ向ムカてテ芳ヒル聖ルをノのノぼボ〜
鐘カチツキ撞ツキにニ年ヒル睡ルハハ〜
又マタ冬フユにニ〜
何ナニもモるル心ココロ聖ミヤコトをヲ〜
水ミヅ草クサ垂タラシにニ日ヒのノ吹フ〜

霰 れまぐ

池イケのノ星ホシ又マタ〜
二ニ三サン枚ヘ圖エ〜
〜
〜

北枝
也
有
菱
林

誇ひよの擡くはくむーがれが
陣雲は塔にるはまぞーがれが
逐よのあそ帆へゆく志がれが
色くの一衣をはめ侍志がれが
棹柿のありはるや神ーがれが
席へけは侍やひとーがれが
月も暈さるに入侍とー志がれが
兼笠の寝もくふと神ーがれが
夕照のあてにもるぬーがれが
便船をさちうとまづ志がれが
大櫓刀持を固うてゆく志がれが

希田
去路
雁秋
青蓋
雨竹
老西
雁志
百夫
兼帆
雲舟
可登

不夷見れど是れ兼や侍志がれが
村ひよの城えよ日の入侍ーがれが
降つく雨や黎明をまのーがれが
兼の青よりたてー久共う那
志が侍やまの侍を見れど今姑山
顔へ侍侍くは本の侍やーがれが
山里の日は逐まりにーがれが
船の米路くは侍ーがれが
舟に來るは是もや志が侍が
漏るも兼破にたぬ志がれが
回濟に士器工高志がれが

梅路
西羊
去強
佳旭
負川
芽野
萩丈
深魚
聖坡
祇丞
岸虎

おきろいおをさ屋や神ーぐ水
水僊のさ蓋あさむーぐ水々那
きくも侍人と一度に志ぐ水小
三日月は屋酌うー神志ぐ水
相れ実の吹かーくさゆーぐ水
手のーをかへもおあや一志ぐ水
りふハ又さちー善侍むる志ぐ水
第一把牛にかぬせーちるるを
ゆく人を一日るふほーぐ水々
兼重を竹田へー民志ぐ水小
山姥の目をかくーちやーぐ水

大阜
六柿女は日因
希因
全
涼保
由戸
希因
來川
晚九
杜加賀金沢江

烏帽子登の乾ホヒーハたく志ぐ水々
鐘をひーと里ハかぶ侍ーぐ水小
は本江戸のりふハ焚水ぬーぐ水小
時ツゴモリるぬ乳母法を敲や小長 志
晦ツゴモリをあーくふくろや神ーぐ水
階除へ本侍日もぬれあーやむる志
禪ウツの嘘今守重にーぐ水々那
併アヒ傘法六ふハ系に志ぐ水々里
乾ホヒにぬる龜のーくさ志ぐ水々奇
彫キリ株法キリ草コを不免て神ーぐ水
あし受けと重本侍女の鐘かゝる急

虎岡
麻父青柳來
乾什
阿坡オノ
筆馬相模小田系
尾跡江
不角
涼保
全
其角

鴉カキ史の名雨をかくとくくくく
洋紙で押へ侍漏やまつくく
原加ひと大葉カ標に香や神志カ
是かへて煖袋の蓋もまの志カ
喜サレくくくくくくくくくく
聖サレ徳に報をゆくくくくく
狸サレハまぐ捨カふくくくくく
骨に隠侍柳の傘や神カ
走カケぬけく先に用かカくくく
身カにカのカのカ木カ絨カやカ神カ
一日の穴にさりぬくく

涼宇
二水下流係
洗濯
冠子
一音近江
幸負
兎士
全
卷阿
李北
百卉

借くくく日此儼侍傘やむく志カ
侍くさはに葉そろくくく神志カ
意カ通に侍カくくくくく
関カさカ此カ毎カ水カくカくカくカ
くカ水カくカさカにカ報カ法カくカくカくカ神カ
持カにカくカいカ様カのカ色カ紙カやカまカのカくカくカ
栗カ原カにカ尾カをカ着カせカくカ落カ来カ侍カ志カ
又カありカせカくカ飛カれカをカ又カ阿カのカ志カ
傘カはカ川カ越カくカくカゆカくカ志カ
依カ城カのカぬカくカさカくカ拂カくカくカ
漸カくカくカ西カへカ日カの出カ侍カ志カ
くカくカくカくカくカくカくカくカくカくカ

兎洲
猪史井関
巴山
袷カ繫
艸カ解去
其石大柳
眠石
一巖
凉宇
白枝
一巖

又飛ハ後のまじし神ーぐ
 鶯鷹の巢は河もやうで神志ぐ
 系中にゐる下草やゆふーぐ
 かけあてく雪の形やぐ志ぐ
 龍あての出船におほき志ぐ
 猿人の火縄くしく志ぐ
 炭賣に茶おほせり神ーぐ
 山むれ里へけしけーぐ

仙衣
不席
可昇
再可
雪叩
笑牛
琴詩
一鼠

冬 日 冬 日
 みじくさや梢もくど日ハ見えむ
 笑林

冬の日や木橋にまの人もか
 ぬゆの日や何もかゝぬ候ーさ
 園城
村岡
鳥夕

冬月 冬月
 冬月 冬月
 水洞て福河は底や冬月
 氷くせくおちく兔や冬月
 文行や家に冷ひい候冬月
 花とても皆ハかゝる冬月

涼傭
全
漁遠
麥推
西羊

木殺風

おぐぐぐ一は一日ひく居里にりり
 本教ほや思ひ出して何處へゆく
 こくくくくやおきひくは夕かぐは
 本教ほや掃はる屋くも福にる侍
 おぐぐぐくや油のぬけ敷麻 赤ん角
 本かぐぐくや月ゆきもえく水のく
 こぐぐぐくやおしぬ折にあもきぐ
 本教ほや浦の逢逢ハ好のま
 こかぐぐくやこの志後比屋篋折戸
 本教ほや塔まきくと吹のく
 おくくくくくや夕えくをまき種能ある

涼兔
 可登
 去路
 魚真
 白枝
下信及女
 あや女
 涼佛
 梅路
 未了
上総長南
 泥亀
 吼圭

本かぐぐくくやる此身にもは紫 赤ん角
 こかぐぐくくや山もくくくくくく海へゆく
 本教ほの竟ハあまりり海の青
 本教ほや摺むる推保むるまめ
 本教ほや潭をもづいて飛流此青
 おぐぐぐくくやおどろくを逐まハ
 本かぐぐくくや廣い水に新はほ里
 こかぐぐくくや砂の流り海の小く
 おぐぐぐくくや後ハかぐく侍種能ある
 こくくくくくくくくくくくくくくくく

白枝
 松琵琶
 京言水
 麥推
 一鼠
 秀陽
 千竹
 眠石
去
 樹仙
 星斗

古今詩明題集卷之四

六

冬 隱 ふゆこ

朽くに伊吹を見よや冬こそ里
 夏るるハ喜なるとして冬は
 つくくと壁の兎やぬゆふとり
 唇も丹子かへさやふゆこり里
 影子法不定めく婦由古毛里
 釜くけくさのいとせり里冬
 頬杖のぬるぬる水く冬
 事ぬ女のうさげハあふく冬
 午時一交時アケにアケより冬こそ里
 強つめく紙格シヤウジに弓や冬こそ里
 芭蕉
 文備
 其角
 凉俤
 青藍
 白枝
 至芳
 一紅
 凉俤
 可由

隠凡に砂糠の暮や冬こそ里
 炭の減アヒテ尙アヒテにアヒテ家士や冬こそ里
 義賊ハカリのさむとメテ園メテより冬こそ里
 居て唐く棚さへ言へ冬こそ里
 衆園ヒキメテく老の窓戸や冬こそ里
 茶瓶ハナイケの口くさき一ぬゆふとり
 己侍りのへ蟹のあやや冬
 はく里本法サウシぬ見のがて冬
 喚ウグニス起ると出侍スキあや冬こそ里
 風鈴に空間スキのはやぬゆふとり
 松ほに茶スおれ冬こそ里
 白枝
 李北
 古硯
 貞丘
 梅下毛伏萩
 長眉
 鶴阜
 文東
 王才
 武戸武炊
 好日襟好沢
 古

角結る心摺屏にまゝり冬こそ里
四方山のまきさへるゝて冬こそり
うぐいすに起る懶いぬゆきまき里
既中着てと見えぬ驚や冬こそ里
灰にまきく浪の形やぬゆきまき里

烏久
素絢
荻夫
百尋
思遠

火鉢 ちひば

母への炕へつけ侍火はちり
指の筈あゝしてかぶに火鉢
手結文理を互に見せ侍火鉢
若脯の角持てかゝづくひはちり

祇徳
古小山笠
涼洲
瀾珠

表洗ふやりにして居侍火もちり
さう露もくきさむをさ火鉢
医者の子結障らつて居侍火鉢
琴籠かして居侍の留侍火鉢

紀伊守橋
吐涼
一嵐
涼宇

炕 つた

敷をくりしてまりにまゝり
寝舎の志中見えこたつた
依膝に負てちりよ侍まきり
よハ纏足につりして居侍炕の形
りよぬ敷てまき侍炕の形

破了
杉町
涼唄
楮史
麥風

偃臥^{タモト}くはかーのまきさこーのり
袂^{タモト}くけむさのぬけはあたつが
鐘の了急背に布くあたつな
賣^{トシ}ほぐの夏にもるぬ炕^{ハナシ}の那
老大^{ヨリ}此一^{ハナシ}張^{ハナシ}をあぬはこーのり
山城^{ハナシ}えの^{ハナシ}をあぬはこーのり
のくさ^{ヨリ}の^{ハナシ}の^{ハナシ}の^{ハナシ}の^{ハナシ}
倚^{ヨリ}そへをあ^{ハナシ}の^{ハナシ}の^{ハナシ}
空^{ハナシ}い^{ハナシ}の^{ハナシ}の^{ハナシ}の^{ハナシ}
讀^{ハナシ}出^{ハナシ}して^{ハナシ}の^{ハナシ}の^{ハナシ}

涼^{ハナシ}体
三^{ハナシ}橋
幾^{ハナシ}曉
水^{ハナシ}音
一^{ハナシ}鼠
破^{ハナシ}了
雙^{ハナシ}飛
兔^{ハナシ}士
曲^{ハナシ}州
今^{ハナシ}江

種火^ミいづ

くのみ火^ミやかへてつふ^{ハナシ}草^{ハナシ}と^{ハナシ}
煙^{ハナシ}火^{ハナシ}や^{ハナシ}屋^{ハナシ}ハ^{ハナシ}く^{ハナシ}て^{ハナシ}あ^{ハナシ}ハ^{ハナシ}り^{ハナシ}
く^{ハナシ}の^{ハナシ}火^{ハナシ}や^{ハナシ}か^{ハナシ}さ^{ハナシ}を^{ハナシ}保^{ハナシ}と^{ハナシ}れ^{ハナシ}ハ^{ハナシ}さ^{ハナシ}
煙^{ハナシ}火^{ハナシ}や^{ハナシ}兜^{ハナシ}の^{ハナシ}位^{ハナシ}さ^{ハナシ}び^{ハナシ}に^{ハナシ}い^{ハナシ}け^{ハナシ}並^{ハナシ}
く^{ハナシ}づ^{ハナシ}い^{ハナシ}や^{ハナシ}隣^{ハナシ}り^{ハナシ}の^{ハナシ}計^{ハナシ}の^{ハナシ}控^{ハナシ}と^{ハナシ}
く^{ハナシ}ば^{ハナシ}火^{ハナシ}や^{ハナシ}女^{ハナシ}に^{ハナシ}懐^{ハナシ}の^{ハナシ}あ^{ハナシ}ま^{ハナシ}里^{ハナシ}
く^{ハナシ}の^{ハナシ}火^{ハナシ}や^{ハナシ}花^{ハナシ}は^{ハナシ}く^{ハナシ}か^{ハナシ}ど^{ハナシ}暖^{ハナシ}ま^{ハナシ}里^{ハナシ}
煙^{ハナシ}火^{ハナシ}や^{ハナシ}夏^{ハナシ}を^{ハナシ}休^{ハナシ}む^{ハナシ}く^{ハナシ}ひ^{ハナシ}さ^{ハナシ}よ^{ハナシ}に^{ハナシ}は

父^{ハナシ}東
去^{ハナシ}路
去^{ハナシ}之
一^{ハナシ}嵐
為^{ハナシ}岩
十^{ハナシ}字
兎^{ハナシ}洲
東^{ハナシ}起

楳^{ハナシ}拙^{ハナシ}ほた

櫛の火や家廣くく文てゆく
ほこせ火や山家けてのせはぐり
櫛の火や梁にやつくたぐり物
りさはちやヒカリをふくまはるる

涼唄
全
西羊
千林

炭 窯 かま

炭く白や櫛に木家のむせはるる
炭窯や小枝を膝ぐさむる
もみかほや水窟の例をひら

涼唄
東奴
素琴

玄 猪 こいの

踏菊へ飲酒人のまつき猪うさ
天井へ幌はかぶくおのこりぬ

千山
柳波

残 菊 宴 サンキクノエン

残階に人にも水も流るる
酒盞に沙も見えそめて踏菊

涼唄
其瓜 伊勢射沢

達 摩 忌 タルモノキ

達摩忌や何に迷ふかへ
達戸忌や何をねるてもふく
達戸忌や梅へ向てもふく

兔士
涼唄
青蓋

老^チ海^イ老^バ婆^イの京にもおやさす^ナ 物 乙^チ漆
連^チ池^イのおそろしい時^ナ 十^ナ 黄^チ牛

十^ナ夜^ヤ

一^ナま^ナぐ^ナに^ナ 炕^{コタツ}を^ナ出^ナす^ナ 全^ナ 禹^チ貢^チ
一^ナま^ナぐ^ナに^ナ 花^{ハナ}一時^ナの^ナ 十^ナ 西^チ羊^チ
一^ナま^ナぐ^ナに^ナ 愛^{ヨシ}情^ニのお^ナろ^ナす^ナ 十^ナ 雪^チ叩^チ
一^ナま^ナぐ^ナに^ナ 梅^{ウメ}回^{マエ}を^ナあ^ナつ^ナす^ナ 十^ナ 汶^チ上^チ
一^ナま^ナぐ^ナに^ナ 素^ソ山^{サン}子^シも^ナ 十^ナ 兔^チ士^チ
一^ナま^ナぐ^ナに^ナ 影^{カゲ}子^シに^ナ 一^ナ度^ナに^ナ お^ナく^ナ 十^ナ 涼^チ備^チ
一^ナま^ナぐ^ナに^ナ 兜^{カブト}葺^ヒ成^ナ成^ナ 十^ナ 涼^チ戸^チ

兄^ニ比^ヒ須^ス講^{カウ}

下^カ向^{カウ}に^ナ 饅^{マン}頭^{トウ}に^ナ 柑^{カン}奴^ヌも^ナ び^ナ 十^ナ 兔^チ士^チ
本^ホの^ナ 端^ヘと^ナ 茶^{チャ}と^ナ 素^ソ山^{サン}子^シも^ナ 十^ナ 雨^チ鼻^チ
本^ホの^ナ 影^{カゲ}子^シに^ナ 一^ナ度^ナに^ナ お^ナく^ナ 十^ナ 涼^チ備^チ
本^ホの^ナ 兜^{カブト}葺^ヒ成^ナ成^ナ 十^ナ 涼^チ戸^チ
本^ホの^ナ 飯^イに^ナ 西^セ日^ニに^ナ 影^{カゲ}や^ナ 兄^ニ比^ヒ須^ス講^{カウ} 祇^チ園^{エン}
本^ホの^ナ 影^{カゲ}子^シに^ナ 一^ナ度^ナに^ナ お^ナく^ナ 十^ナ 庭^チ城^チ
本^ホの^ナ 影^{カゲ}子^シに^ナ 一^ナ度^ナに^ナ お^ナく^ナ 十^ナ 巴^チ雀^チ
本^ホの^ナ 影^{カゲ}子^シに^ナ 一^ナ度^ナに^ナ お^ナく^ナ 十^ナ 去^チ路^チ

紙衾 まふき

故がましと紙帳もおき紙衾京
 寐かゝるも水チド史の冷も紙衾子堂
 漏は音におと後さやも起ぬも白涼備
 衣層もよに着れむとふ尹里

紙衣 かき

裊柿シラカキく人にえりしうかこころを
 世の人の着をさぐ紙衣うぬ
 くさぬとも人の訪ひ来ぬ紙衣春來
 本教コガウシの着を裁縫シメテ侍かみ五菱

結びを封じてりし紙衣雲帝
 後うし掃摩の紙をかみこの那一葉
 穂あげの衣へ出まふ紙かみ茅魁
 櫛シせしうハ後へふさぐ紙衣可登
 衣ヨルキの啼やころびほうこか此柱
 胡蘆ヒヤウタニのやうに帯も侍紙衣士鳳
 間ヒニをよの紙をうし極侍紙衣吼圭
 擇ヤド舎人紙衣はころびる紙衣眠石
 俗あが里の人よ遠のくかき可卿
 種ウツミ火へよを揉くへ侍かみ祖述
上毛馬馬才
上毛祖祖述

今起カキの巻イれキの巻キ之キ紙キ 名キ小
定カ及タの偏イ急キ性キ心キ之キ紙キ 名キ小
男キ之キ以キ一キ様キおキろキ紙キかキみキこキ小
入キ楚キ

頭巾ハキ

松キ僧キのキ家キにキ一キてキゆくキ紙キ中キ小
傾キ城キにキ夜キへキくキたキのキ紙キ中キ小
蘇ツシホウのキ目キ糸キもキ様キてキはキまキひキ小
居スエ偏フのキちキちキ様キはキ紙キ中キ小
剃キ刀キはキ糸キのキ思キをキ紙キ中キ小
猫キ入キるキ百キ目キをキ様キをキ紙キ中キ小
東キ指キ

橋キをキへキくキづキいてキゆくキ紙キ中キ小
萩キ苓キをキ味キりキくキ飛キ紙キ中キ小
涼キ楓キ

齋醬ナマ

子キあキろキ紙キ本キ魚キにキるキ紙キ中キ小
河キ魚キまキまキハキゆキさキぬキちキやキ齋キ醬キ汁キ
隣キへキハキ音キふキちキちキやキ齋キ醬キのキ那キ
強キ鬼キ

水鳥

水キ鳥キのキ一キ度キにキまキえキてキ齋キ醬キをキ歌キ
多キ多キ法キ師キやキ如キ葉キのキ紙キ中キ小
全キ涼キ備キ

水多や枯れ不野山のおろろの
水多や暗さくほくく又涼き
多多のまてハき野多や日の上

紫雲考考を引

けお野考考はむくやはたて岩はと
をーと野や筏の上かハ野も
涼備 一音

危 かも

江の上は日もくさけや危は
吹あふ中はききや蓋は野鴨
涼備 破了

籠船中入江の危には 略り 三夕

水史鳥 略り

船中の神酒あつめく水史多小
埋火は底ふハち中野々な
一羽啼二羽啼後ハ水史多小
伊の突は今く見ゆ水史多小
艇カ殻カラもカ響カハカもカ水史多小
起タツくタツ起タツあタツくタツ水史多小
起タツくタツ起タツあタツくタツ水史多小
枯葉に月おあむて水史多小
如本 危士 巴静 凉備 全 素因 希因 全

一をを待ありあはにちるもうを
さびしはねふもぬちや理り
又伊のちにして事保ちと重うを
河津の石不凍ひぶる史きうな
ぬくめての年をまかへ思ちより
あゝ海の息も保時や噂ちと重
系望ミ厚まゝに海むでちと理り
今も来々圃へと歌を和理り
然りしむ山もあや磯ちと重

一和
祇儀
曲紀古年戸
一嵐
曠丹
古由
伊勢
金一
麦林
涼備

鷓鴣 みそさ ぢいお

目のうちも結ソダチる成中やみそぢいお
文法ふ来々善ひり重う持さぢいお
鷓鴣毎日来てと只おしり
ぬく屋く履にあり鷓鴣
鷓鴣の段をうはちやみ持ぢいお
斧フシ孔アナをぬけふ木の葉や鷓鴣
浦に來歌ぬの御焼やとさぢいお
撞の中をほぐさや英者傳くお
静さも座禪の茶やみそさぢいお
檜スリ神ガキの果ハウエキ樹中み草ぢいお
名草は杉戸やぬけとさぢいお

涼備
全
素苑
桃雨
一嵐
花明
迂生
曾平
秋午
吉叩
禹貢

け本、和よるくまへおより鶴 鶴 府鳩

雁鳥野のた

鷹タカガリ在や深田の夏にかしてま
野に又簞若せし新鷹野うな
涼備 南蘆

獺かま

夕獺や雪に兔の消へ居し
獺とまや素フイガ齋ムジナ奈へ那
おかまやお小狐も火をゆ
加賀 万子 汶上英徳大 怒風

熊穴居くまのあふ

穴熊や系室のあし月ひし
雲和

蛭蠅かま

蛭蠅、乃く鼓やまぬぬさにか
醉江上毛お橋

沙喫かま

五百生者く来くなまこ
山水はまに居急深ふほふ
角イサリヒ文まのいしゆも先歌沙喫
漁火を驚く中になはこ
加賀金沢 梅左 白枝 涼備 全

禿ツリカ子の海へくづけく分海こぬ
 なゆナユくク方をかめた歌沙サ響ヒ分
 管ヤブるルにニ爬ハてテ所所か沙サ響ヒ分
 人ヒト起ヒきキやヤいイくク見ミ待マたタまマこコ分
 面オモ筋シを尾ビ鱗リンをを遊ユくク分海分海ここ分
 系ケイ清セイのの遠トででつつくく心ココロななままままぬぬ分
 植ウエくくハハ芽メをを出デししくく分海分海響ヒ分
 叩ヒキくく海ウミくくハハおおははええくく沙サ響ヒ分

瀬田セタのの魚イサハハ破ヤれれくく字ジ治チれれ麵條魚メンジョウイサ分
 祇シ丞ジョウ

水ミヅ皆ミひヒををととににももああららままるる若ワカいい話ワタシ
 茶チヤ席シヤクにニ河カ河カ志シまま海ウミひヒくくををくく分
 宗ムネ艦カネ
 东ヒガシ奴ヌ

河豚魚カドクイ ふくこ
 河豚汁カドクイ や一ヒト条ジョウのノ里サトーーくく獲ウケ生ナマ
 河豚汁カドクイ や後ノチのノ自ミ給ミもも心ココロのノたタ先マ
 林ハヤシ菁アヲ医イ者シヤ此ココ故コト際サカイををくく河豚汁カドクイ
 莞ワカ尔ニくくとと々々らられれくく新フシ糸イト々々那ナ
 船フネ汁ジュやや中ナカ忘ワシれれくく其ソノにニゆゆく
 ぬぬぐぐけけやや人ヒト静シヅままつつくく若ワカいい心ココロ
 船フネのノ友トモををここーー考カウららりりふふくくとと汁ジュ
 希キ因イン
 曾ソウ平ヘイ
 一ヒト条ジョウ
 九ク皋コウ
 祇シ丞ジョウ

魚簾守 あぶら

おとろい罪ハつゝと魚簾守
水へ川瀬溢れきり魚断ち
川中に寄れ居やあぶら守
りされ居あふてくしり魚簾守
持し水と後次めやあぶら守
はひりさハ桑山子姑竟や魚簾守
網の目も映ぬ付やあぶら守

雲 郎
桺 尾
得 仙
西 羊
相 系
三 橋

枯野 かれ

目は魚持し枯野の那
續 志は掌しゆく枯野の那
有るまを捷徑 志はぬ枯野の那
龍膽の折よく来り枯野の那
兼生はく清くし枯野の那
系くく目のけり乾かしの那
け先のやを見おろす水のけ
庭ぬ家のまきまきまきの那
骨言に寄れ物事し枯野の那
斜竈の香拵はく枯野の那
松原へく吹くし枯野の那

伊勢山田 何 声
見 風
涼 傘
全
棠 江
其 意
洗 音
香 戸
珠 李
巴 静
雲 郎

松むくま水あけく松原松野うね
常標本の多吹こほく松野うね
村ひとくつ寝くまは松野うね
杖よ秀歌立添くく下河野うね
響に傳く力ハりくぬく水のく
歌子の送る屋う歌か建乃く
老く物くくくはひくむく水のく
馬下くく河の栗くくく水野く

字石 上毛小泉
右交
似竹
其舟
白志
涼楓
武隈川
北川

枯芭蕉かきを

ともかくもくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

芭蕉

枯くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
従て飛ぶ夕日の齋やうねをくく
海までハ富士はくくくくくくくくくくくく
湖に敷くくくくくくくくくくくくくくくくく
あくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

伝徳上田 芳洲
文酔
耳風
涼海
文下

枯蘆あつれ

枯蘆や朝の歌よ日ハそ

破了

芭蕉刈りば

芭蕉刈りあげろへ直ふきのつく

紀伊牟戸 雨夕

菜菔挽 ひたいこ

下^レもとらへて長保々菜菔挽
はひーさハ遠縁聖^レ骨や菜菔挽
四五所^レ此矣^レあり菜菔挽
^ト山^ヲ的^ニ反^シ倚^ルやだいこひさ
聖^レ報^ト事^ノ屋^ハ踞^リり^リ菜菔挽
^レ原^モ層^ニ樓^ハハ^カ一^ニ菜菔挽
^レ澤^ト菜^リり^リ船^ノ多^イい^ホ心^ニ委
ぬけて^レ健^クい^ト角^カや菜菔挽
菜菔挽^ト去^レにありぬき馬^トの^マ

鬼士
加賀金沢 白貴
涼舗
祇亟
苡麦
一麻
希因
入抄
素筏

兜^コにまけ^ク老^ノ英^部や菜菔挽
^ア輕^ユく^レ水^ノ英^部へ^返一^ニや菜菔挽
菜菔挽^ト折^レき^レ可^ク体^ニこ^ノ菜^ヲ
松^ノほ^レい^レの^ツく^レや^だい^こひ^さ
山^圃に^かく^レさ^きあ^る菜^菔挽
^フ見^テ毎^日侍^人の^所に^中だ^いこ^ひさ
^フ或^レ故^レに^んあ^て何^レも^もあ^らむ^も或

洗言
涼舗
雨篁
着平
青蓋
去路
時給

菜菔挽 ひたいこ

海^ノ家^トも^も根^ノの^りい^中や^菜菔挽
^ウ腕^ノ首^ノに^松子^もつ^くい^かが^くい^さ

南部
白扇
和水

かけあの尻ハみどりーサセ草々枕

信濃松本
不重

生姜掘志やうが

下序ハ漕カの粗ウ糸ウや生薑シヤウ何里

陸奥桑折
可貞

麥蒔ヒギ

麥蒔やヒギ起ヒギをヒギふる里ヒギ遠ヒギる里ヒギ

涼儀

麥蒔やヒギ一ヒギ時ヒギハ又ヒギむヒギふヒギはヒギ

麦林

麥蒔やヒギ志ヒギがヒギしてヒギ疾ヒギ疾ヒギ多ヒギるヒギ

希因

麥蒔やヒギさヒギへヒギふヒギ深ヒギのヒギハヒギ子ヒギハヒギ種ヒギ

百卉

麥蒔やヒギ桑ヒギ山ヒギ子ヒギハヒギ終ヒギるヒギあヒギらヒギるヒギ

双羽

麥蒔やヒギ飲ヒギぬヒギ飽ヒギのヒギかヒギハヒギ一ヒギはヒギ一ヒギ起ヒギ
麥蒔やヒギ穂ヒギにあヒギやヒギふヒギくヒギ枯ヒギ草ヒギ花ヒギ
蒔ヒギつヒギめヒギてヒギ腫ヒギるヒギるヒギやヒギ麦ヒギはヒギ一ヒギけヒギ

西羊

味儀

全

藁吾花つたの

手テ中ヌにグ糸ヒのは備なやつはは比とをか

鳥林

藁カウにカウ一カウのカウ佛カウハカウ一カウのカウ藁カウ吾カウ花カウ

積父
薄之

冬牡丹たふが

ああままししけけのの衣エカやカかかささ移シてテ冬トウ牡丹フダン

大和
千代

猫ネコのノ目メはハ時トキ短ミいイせセハハ一一ののぬヌゆユがガ一一のの

榊居

太白此言てまがむやを牡丹 涼俤

狂花かへり

三才聖や地靈の事やどかへ里花
能因もりし流ししかへ里もか
一はく里雲いそぐやのへ李花
今深く見ても碧石や可ま里波奈
枯枝へ息のゆくへやかへ里もか
かへ里もか緑もせぬ糸に事此夏
燒炭史のやあてめてかへ里はな
たまさしてひく山流り李花

紫園 双飛 見河 青蓋 一上毛板の花桃 希因 麦舟 巴游

あはても追つく言やかへ里はな 艸羽

茶梅花はな

茶梅花や素山ぬ梅花に流るる
茶梅花や立てハ居士衣に疎スキトホリ通

小見川 疎に 祇十

茶花ちやの

茶のむやとがぬとのハ折もせぬ
茶花花や汲ぐも出さる火たきる
茶の志や利休は目ハ芳野山

茶丸 希因 素堂

金剛纂でやつ

伊雨ニッキもあてぬやほづや茶の時

上毛合賀野
鳥竹

枇杷花 はひたの

夏吟なつのそよを今も枇杷花
秘カ探サの糸いとまじりて
茶チ梅ウメ花ハナはついでに
見ミ侍シや枇杷の花

吳江
司雅
琴詩

鬼箭

に川

あーきやこがしくて
にーきやちつくも松のい

奥仙基
茶二
此君

散紅葉ちりも

庭々人へ夕日の昔や散りみち
伊イの多たきうも見えに散りみち
惜ウツまじり溜うのしりや散りみち
山門を碎くだりて
一葉をつんで

紙中梅語
楚角
仙臺
左洲
一音
複雪
画洲

落葉おち

けいーさハたろく
詩ツリカ子はーは

巴静
笑牛

松キ子のサ籠ハをくは侍落葉ハ那
 不亦かき木もくびれて落葉ハ
 跡に赤いおと見えぬおちむハ那
 見侍らるに百日おちむハ那
 日の侍は猶ハ水歩けく落葉ハ
 長あ〜皆にむくハ落葉ハ
 地を走敷りの果に侍落葉ハ
 赤く〜山を里か〜を杉ちむハ
 水に赤侍枝並け〜落葉ハ
 星をく〜地をあ〜つ〜落葉ハ
 足着に〜道の出事〜落葉ハ

一音
 白枝
 痛茶
 大阜
下毛形静山
 一葉
 恨瓜
 李北
 眠帝
 三橋
 汲水

何と〜日星か〜つけ〜落葉ハ
 解いの侍をく〜侍落葉ハ
 官を此〜くあ甲〜侍落葉ハ
 今持くと〜遊さ侍見〜侍落葉ハ
 松給へ〜丸ついで見え〜落葉ハ
 種樹キ垂に秋の光〜侍落葉ハ
 見侍らるに侍のかさ〜侍落葉ハ
 庭不〜杖のそよ〜ぬおち〜侍落葉ハ
 水仙に夜の出事〜侍落葉ハ
 片めて〜東〜侍田を〜侍落葉ハ
 やり〜うに橋〜侍落葉ハ

玉負
 古山
 斗光
 青蓋
 巴白
 百道
 其竹
 一能登七尾戲
 合浦
同睡龍
 可樂

大をけむる形におちたる那
 精出しく見てもおに入る落葉小
 傾城の澄けけさう居たははの那
 船中のほろをめぐはる葉葉う那
 長けの精ふしと居たは波果車
 寄生に在のゆき来居落葉小
 新木をけみしに居たは落葉小
 函猪鹿の居あし出して落葉小
 飛石を岸の磯をおちたる那
 とづしに來に成る居落葉小
 東の月たきあけさ居落葉小

乙 卷阿
 真郡山 圃中
 艸羽 二江
 凉城 全
 白水 芭叩
 麥林 全

冬木立 ふゆこ

海見しく家家落し冬木立
 三茅野も紙衣の色や冬木立
 冬木立鬼の住家もあし冬木立
 白壁の一軒を冬木立
 斜陽のうらに清はや冬木立
 山、おとりのたぐひは雲や冬木立

乙 落
 梅 落
 哲 風
 洗 音
 凉 城

枯柳 かれや

大まき交る楊もさびし枯やる那
 凉 城

枯柳 暮いづいづ 別も せび 笑林
枯くさく本の 端をぬ 柳の 五仙

寒 ぢぢ

松子の 氷を とも 盤敷 千さう 那 左十
肩ハ今 待も 不し 一さ ぢぢ 一音
茶室の けいこも 文て せす 三さう 那 双飛
奥底も ちぬぬ さまや 海の 音 前川
都保く ちぬぬ さまや 海の 音 兔士
けいこに あゆま の ちぬぬ さまや 那 可也
影子の 曲尺 合ま 不さ ぢぢ 上毛桐生
蛙

立字 此 要を のろい さむ ぢぢ のれ 西洋
踊 針に 糸の ちぬぬ ぢぢ ぢぢ 伊勢
情 疎に 火神の 言さ さまや 那 凍 係
麦 菴の けいこも 文て せす 三さう 那 杉 漁
袷 の 背を たく ぢぢ 三さう 那 可 由
露 かの ちぬぬ さまや 海の 音 雲 和
練 ちあゆま の ちぬぬ さまや 海の 音 嘯 山
柝 に ぢぢ ぢぢ ぢぢ ぢぢ 未 了
巨 鏡へ 形の ちぬぬ さまや 那 桂 露
子 を ぢぢ ぢぢ ぢぢ ぢぢ 涼 素
換 の あゆま 直 ぢぢ ぢぢ ぢぢ 茶 ぬ

寐て是ハかこまをふたきさう那
 上トで大ユのまきさむ出ら
 煉掃てつらの墨ははむさう分
 袷ソデウチに草のたまはきさう那
 橋へまゝく人まはやさきさ
 唇にキセル煙首おろえはさむ出ら
 船次ツツマに皆揃ふてさむさう那
 松系マツグサのまゝまゝささう那
 ぬゝヌと清士の清はささう那
 埋火ウラヒの下へ文紙をささう那
 日糸ヒイトの小跨コダにいそくささう那

粗藝 百卉 西羊 涼宇 眠石 漁遠 王才 文東 一嵐 深城 両道

老僧に磬のまはやくさ出ら那
 丸山のちふまゝはさむ出ら那
 乾カハ過ワサケ鯨魚の戸に水あはきさ
 齋サイの尾末被へそつはきさ
 於オ圓マルの油カッパ衣カミのうぶくさはさ
 衣イヌ火ヒもひきまめておはきさ

杜門 汶上 黄牛 成石 破ろ 東起

挿サシ花ハナに一陽ぬほむやるどらう
 埋火ウラヒも極水キョクスイもはをがにきまら

梅路 白陀

古今和歌集卷之四

冬至梅

日^ヒ器^{トケイ}の^イ狂^{キヤウ}ひそめり^イを^イあ^イふ^イ梅^{ウメ} 汝^ニ

曆^{リキ}賣^ウり^コり^ヨ

月^{ツキ}を^イ笑^イま^イす^イ年^{トシ}も^イ笑^イふ^イし^イ唐^{カラ}賣^ウる^コ

武八陵山 夏生

霜^{シロ}しも

仍^ナに^イ針^イを^イく^イく^イと^イ賣^ウる^コは^イ小^コ

水^{ミヅ}晶^{シヨウ}も^イ日^ヒハ^イと^イ買^イひ^イて^イ賣^ウる^コは^イ一^{ヒト}ら

水^{ミヅ}仙^{セン}ハ^イま^イぐ^イも^イ茶^{チャ}や^イ志^シも^イの^イは^イな

茶^{チャ}の^イ殻^{カラ}を^イも^イハ^イ見^ミま^イす^イび^イす^イ新^{シン}茶^{チャ}

加賀 笑林

大睡

神^{カミ}衣^イや^イ物^{モノ}の^イ尖^{セン}里^リを^イ屋^ヤと^イて^イ後^{ノチ}
再^{マタ}に^イま^イぐ^イ旅^リハ^イつ^イいて^イ賣^ウる^コは^イあ^イら^イる^コ
そ^ソつ^ソと^ソ屋^ヤと^イて^イ物^{モノ}に^イ賣^ウる^コは^イあ^イら^イる^コ
さ^サく^サさ^サを^イ喚^ウ出^デは^イ馬^{ウマ}や^イり^イは^イる^コは^イあ^イら^イる^コ
樟^{シロギ}の^イ滴^ツや^イお^イち^イて^イ志^シは^イ一^{ヒト}ら
新^{シン}猿^{イヌ}は^イ聖^{セイ}徳^{トク}の^イあ^イら^イる^コは^イあ^イら^イる^コ
春^{ハル}茶^{チャ}の^イく^イは^イる^コは^イあ^イら^イる^コ
神^{カミ}衣^イや^イ後^{ノチ}ハ^イお^イら^イる^コは^イあ^イら^イる^コ
漁^{イサ}火^ヒの^イ焚^タぐ^イは^イ一^{ヒト}ら
昔^{ムカシ}の^イ茶^{チャ}は^イあ^イら^イる^コは^イあ^イら^イる^コ
粒^リハ^イま^イぐ^イの^イ徹^{トク}は^イあ^イら^イる^コは^イあ^イら^イる^コ

甲州 祇丞

伊勢 明大

洗言 賢浦

安里

漁遠

兔洲

阿僧

李趙

芭蕉

洗言

古今和歌集卷之四

十九

楷楸は火のね〜燃体素あか
後士も二足三足、字片の〜も
路系のえ〜もあふ〜もあふ
神家や茶園壺り〜知ぬらあ

其楸
上毛伊勢寄
相模小田系
野坡
椈
巴

雪 少子

神音や積体海いあサキ志ぶい
話〜と〜と〜と〜と〜と〜と
いざゆ〜と〜と〜と〜と〜と〜と
家ひと〜と〜と〜と〜と〜と〜と
神音や夏る〜松もそ〜と〜と〜と

江戸山
去来
芭蕉
大至
利お小余

神音やま〜と〜と〜と〜と〜と〜と
神音や大いにお話〜と〜と〜と〜と〜と
神音や花さけ見か若にゆく
神音や柳の葉ハ出〜と〜と〜と〜と
枝炭も打水〜と〜と〜と〜と〜と
ふるさぶ淵田の旭や〜と〜と〜と〜と
神音や〜と〜と〜と〜と〜と〜と
酒屋ま〜と〜と〜と〜と〜と〜と
粗サレ飛〜と〜と〜と〜と〜と〜と
弓伏〜と〜と〜と〜と〜と〜と
あ〜と〜と〜と〜と〜と〜と

如本
洞芝
左菊
麦舟
椈木仙
芭叩
其角
巴長
涼免
和唱
柳飛

神香や草とけしちに木の松
 任者の橋ニルめりまろねれゆ
 神香や雨のひらあとおりの水
 おろしハ雲の重荷やりさ結香
 神香や地交へつと水水白
 杉小く管柳の形や束のゆ
 神香や先吹とて竹にそく
 香の目や是月も推れ木下曉
 香さく人のぬけやり法のゆき
 月落て猿一いろや束カ香
 物焚と庭に香あり竹の香
 百卉
 白枝
 柳伊勢桑名
 将葉
 凍水体
 全
 全
 武文隣
 雨石
 麦由
 洗市

香ア牛カ花ホのニ福フ瑞ズハカつツきキりリはハ結ケ香
 埃ア持チ原ハ林ハ香フさスくクさサけケさサ結ケ香
 神香やつめさハ目の底にあま
 さにま原ハ免メの下ノやリさサ結ケゆキ
 木も竹もタ攪マぬヌるル香カのノ香
 神香や先ハ厥マくク消シ神カ原
 断キ木フ香キのニ柱ハへヘまマさサりリ香カのノ香
 神香カのノ香カのノ香カのノ香
 神香や湖ウむムりリおオそソ結ケ起
 束の香カさサとトこコほホやヤハハ何ナニ香カどド
 りリさサけケ香カ少シいイがガ橋ハシのノまマりリそソめ
 上州上州徳川
 爽馬
 艾梅
 素園
 素臨
 香香碑
 許六
 乙乙疎
 李北
 京京新新郊
 紹巴
 下下毛毛佐佐野野
 勇尾

白くぬくそくおのくならぬ雪のを
おきや 降ふくす水のく
先く見ぬ言はあつさや 標 湊
くおハ又 標 くすくく 雪 固め
雪は雪に 地 雪の多きや 雪の雪
雪の雪も粗 雪の雪 雪 通
雪 雪の中 雪 雪に 雪 雪
雪 もせぬ雨の 雪 雪の雪
雪 ひくく 雪 雪 雪 雪
雪 雪に 雪 雪の雪 雪
雪 雪 雪 雪 雪 雪

上毛 浣 江
麻 又
青 蓋
兔 上
涼 糸
川 夕
甲 覇
可 卿
乙 疎
木 路
常陸 土 浦
石 牛

霰 水あら
階 除 階に 穉のくくあ 水くあ
穉 穉を 穉 穉 穉 穉
穉 穉の 穉 穉 穉 穉
穉 穉の 穉 穉 穉 穉
穉 穉の 穉 穉 穉 穉
穉 穉の 穉 穉 穉 穉
穉 穉の 穉 穉 穉 穉
穉 穉の 穉 穉 穉 穉

白 枝
州 羽
冬 涉
五 菱
信濃 高 遠
木 志
青 戸
氷 柱

氷柱 つら

順の下づりひはき水柱水
 去路
 系部をきく見てお歌水柱水
 水枝
 跡本に水のふと流つらう水
 麻又
 浴あぐまにつまむて見よ水柱水
 水用
 午一のくりして流る水柱水
 深宇
 春米史の後くおれるはらう水
 洗電
 撥船史は振るの扱はつ舞う水
 破了

水 こほ

走カケてまゝく流るの氣く水う水
 深魚
 水係あや船フナとまべき石まゝく
 鶏口

一の松ひのりにまゝ水う那
 江 春來
 水多をふ像ナマリにまゝ流水う那
 痛文
 魚板イサに水の鱧ハナや落まふ里
 柳四
 中陰へぬ計田のまや落こふ里
 洗電
 林意の目をえてまゝ水う那
 水多の陽ヒナタへ流るまほ里う那
 鳥林
 さいを多オホく見せ流水う水
 文東
 水の洞アナは寝も出まう水う水
 其柳
 淵ハ今本の葉は寝流水う水
 西羊
 水里つめて底の洞アナく流水う水
 一 流上

いろくの梢を極侍こほ里々か
 画のせけ侍水にしてそく氷々か
 石山に藤の強保こ不里々那
 孝行の海にハ見えぬ氷々那
 河のまゝ深つゝ時侍不里々奇
 滝ツリカ子まゝ魚ハあゝ魚ぬ氷々の那
 松僧の團纏意てぬ氷々那
 笠船乃をゝゝ勤くこほ里々
 氷拍ヒシヤクてハハゝハハおぬまを里々
 田の隅にろろもり此氷々那
 輕解フナに眼ニ險バの出事居氷々那

白枝
 眠棠
 一音
武志ある
信史より
 玲字
 西羊
 一氣
誠井新信波
 柳水
 新水
下毛信照可笑

斧かりてきさを叩くこや里々か

玲侍

盤屋おかこ
 盤屋中位おかこに利侍ハハハばう里

秩父大宮
 柳波

袴たき

袴たき中下たきろろ肩も下りて新
 袴たき中下たきぬ是もたさるる那
 袴たき中下たき膝か出してハめぞろが里

上毛高寄杉町
 東里
 芭叩

神樂らくぐ

其角 其角

里神樂 くらとか

むつ〜さか子も見えど里かぐ〜 昔

素齋祭 さいで まつり

祭の出ぬ聲〜こぬいでほつりが 徳 兔由

神敷 もちた

今までいくつ破〜ぞ神多〜 兔士

春の出は舞の口や神た〜 涼儀

謹かこめて別跡〜とぞ神た〜 一歳

舞は破れ後光やもちた〜 素山

燕滴の歩り〜と神〜 儿山

あぶさきに酒子ハあげ〜神敷 雨篁

ひや〜と水歩り〜神敷 意山

姉たりね〜節がつかぬ〜神〜 多少

佛法の巻ハ巻〜とやばち〜 梅左

牛〜も〜とや〜神敷 希因

意塚ハ七ツの介〜神〜 麦浪

好意ヒヤウタン小後生の程や〜とちた〜 百川

いそ〜の舞フクバは〜とち神〜 柳居

鳥桂

門番く若かりり申 神 紋
 杉蘆も海不しげし神たて 子 永
 何ゆゑの雲も歩りぞ神たて 雁 平
 雲のしをゆくまぬ祖作や神紋 雲 節
 是も水も少い報しはちたて 乙 節
 持この小力いりてははちたて 平 節
 百八の雲中おさへて神たて 平 節
 光

澳多ぬくめ

伴勢山田 季 覽

船ハ又善にも活しぬく先手
 神の本も伐らぬ原あそぬくめ多
 里 楓

向曉ハ人にも見えぬく先中里 西 羊
 船も出ると時や旭にぬくめと里 夏 分
 船ハ又船智少をぬく先と里 洗 衣
 持かへは時や大事にぬくめ多 涼 傘

海船捨つくら

船つめは雨も多し海船捨 夏 宇
 船尾はくくして返く海船つま 汶 上

水 僊

水仙や翠木ハ炕をさめにかく 露 蝶

水仙や 謎^カ謎^イで 見ては ぬ^サぬ^イの
水仙や 蓮^フ蓮^フも 舟^フ舟^フの 香^フ
舟に 月の 影^フぬ^フ時^フや 水仙^フを
水仙^フや 望^フい^フく^フ花^フお^フて^フ見る
水仙^フや 凍^フ掃^フく^フ 猶^フふ^フ

香^フ叩

李^フ北

石^フ馬

可^フマ

鳥^フ久

寒^{カン}菊^{キク}

雪^フや 糖^コ糖^カの かけ 白^フ 中^フ 香^フ
雪^フや 氷^フく^フ 香^フに^フ けて^フ 行^フ

芭^フ蕉

乙^フ強

寒^{カン}梅^{バイ}

雪^フ梅^フや 霜^フの 氷^フに あり^フ ま^フ 里^フ
凍^フ掃^フの 後^フで 目^フを あげ 梅^フの 香^フ
香^フま^フく^フ ぬ^フ 香^フも 美^フく^フ 梅^フの 香^フ
香^フめ^フく^フ と 香^フい^フく^フ 香^フめ^フは な
子^フを くる^フ 末^フの 香^フの 香^フ 香^フる^フ 先^フ
江^フく^フ 飛^フぶ^フ の 月^フに 梅^フは 香^フ
飯^フ 香^フれ^フも 香^フく^フ 香^フく^フ 梅^フ
た^フく^フ 冴^フは 唇^フや 香^フの 香^フ 先^フ
誰^フが 顔^フも 来^フつ^フ 花^フや 香^フの 香^フ 先^フ

涼^フ備

兔^フ士

涼^フ備

素^フ堂

里^フ卿

花^フ來

五^フ菱

二^フ毛

涼^フ備

臘^{ラウ}梅^{バイ}

増梅や 花も燃さぬ 花のいろ

伊賀上野 土芳

冬山茶 かんつ

春の色も多し むま 山草花 斗ふ

寒垢離 カンコリ

空旅離や 夏の涼れおそり 空 空里

空旅離や 人れ空さを清して 空 雨笠

空空里や 一口飲ぶ身を固め 空 伊山

寒念佛 カン子バツ

雪打を起して 行や空 念佛 買明

雪打 コバシ け戸の窓く 涼楓 涼体

雪道 ツジ へ 涼楓 涼楓

白曉 アケカタ の西ハ 白枝

子に 東起

身塚の底へ 古由

黄の文く 至志

櫓へ 出く 色叩

浜あぐりの 一葉

日のく 一葉

寒 殿 こかむ

冬や節に暖くは庭もつく
冬や嘍々^{カシ}と信^{チシ}る火にあはる

凍 備
吐 雲

鵲 巢 かさぎ

鵲の巢や橋をぐら昔ねる

巢 かさぎ
也 車

蒨 季 候 せき

蒨季休や夕日の餘るる帰
蒨季休や何をきめても夕入る
蒨季休や息の肩に橋があら

柳 居
一 氣
青 益

蒨季休や顔面もほぐいそが
蒨季休やあひに酔へてあはれ
蒨季休や吐ふやど狩言ふあは
蒨季休や立ぬはぐぬ歌が

麦 舟
一 紅
乙 珠
凍 備

臘 八 ラウ

臘八や流る水もこのいそが
臘八や解そよくと枯芒花
臘八や^{カキ}爆水もやつれて降^{ツク}は時
臘八やまぐさ眼のまぶさあ

素 固
露 舟
吼 圭
大 睡

雞卵酒 たまご
さけ
魚のくち 象 ゾウ して 魚 イサ や 卵卵酒

上毛言 九江

藥 餌 くちま

軍 ツノ 昔 ドモラ 々 ハ 見 キ 出 デ 一 イチ 々 ツ 也 ヤ 里 リ 菜 サイ 餌 ヰ
児 コ 菜 ノ 々 ノ ハ ハ 尻 シ を ヲ 欲 ホシ 一 イチ 々 ツ 也 ヤ 菜 サイ 餌 ヰ
洞 ヒ 斗 ノ 火 ヒ や ヤ ど ド 鮫 サ に ニ 利 キ 一 イチ 々 ツ 也 ヤ 菜 サイ 餌 ヰ
寝 ヨ 衣 キ 出 デ 一 イチ 々 ツ 也 ヤ 洞 ツ の ノ 用 ヨ 一 イチ 々 ツ 也 ヤ 菜 サイ 餌 ヰ
配 ハ 劑 ジ を ヲ 猫 ネコ に ニ か カ く ク 一 イチ 々 ツ 也 ヤ 菜 サイ 餌 ヰ
猿 サ 人 ヒト に ニ 弟 ニ 子 コ も モ 從 ツ 一 イチ 々 ツ 也 ヤ 菜 サイ 餌 ヰ

士 喬
魚 遠
九 鼻
一 胤
玲 二

看 ハ 淨 タ の ノ 代 ト 系 ケイ も モ あ ア り リ 菜 サイ 餌 ヰ
拳 ハ 熟 ジュク 一 イチ 々 ツ 也 ヤ 絲 シ の ノ 一 イチ 々 ツ 也 ヤ 菜 サイ 餌 ヰ
法 ハ 力 リキ も モ 使 シ 一 イチ 々 ツ 也 ヤ 一 イチ 々 ツ 也 ヤ 菜 サイ 餌 ヰ

汶 上
涼 伴
西 羊

煉 掃 ヒ

大 オ 馬 ウマ 此 コノ 負 ネ 暈 ウン や ヤ 煉 レン 一 イチ 々 ツ 也 ヤ 一 イチ 々 ツ 也 ヤ 菜 サイ 餌 ヰ
煉 レン 一 イチ 々 ツ 也 ヤ 何 ナニ 々 ツ 也 ヤ 一 イチ 々 ツ 也 ヤ 菜 サイ 餌 ヰ
竹 タケ に ニ 毛 モウ 一 イチ 々 ツ 也 ヤ 一 イチ 々 ツ 也 ヤ 菜 サイ 餌 ヰ
新 シン 年 ネン の ノ 乃 ノ 々 ツ 也 ヤ 一 イチ 々 ツ 也 ヤ 菜 サイ 餌 ヰ
茅 カ 家 ケ で デ 毛 モウ 一 イチ 々 ツ 也 ヤ 一 イチ 々 ツ 也 ヤ 菜 サイ 餌 ヰ
一 イチ 々 ツ 也 ヤ 一 イチ 々 ツ 也 ヤ 菜 サイ 餌 ヰ

麥 林
嘯 山
涼 伴
全 戸
入 楚

古紙よむ女ハヨク〜漆〜
漆もさや葉よ逢〜もつ〜
海海をつまむで〜漆〜
似城のむろにハ目や漆 掃
漆掃中船ハ漆も去〜
漆掃中用のあふ歌掃〜
漆掃中柳橋の目もあ〜
漆も〜也や友のめ漆〜人邊ハ

江 蝶 角
青 曾 代 女
女 せん
破 了
意 山
一 鼠

春 餐 づら

餐つ〜や見〜
加賀金沢 乎哉

畔 跨ぐや〜分 往来や 次合 席 江 露 井

歳 忘 事 水

自 写 掃さ〜
小 徳の 菫を 漬侍人や
おほゆらに 赤ま 海入を〜
多 少
作 雨
示 行

難 おにや

物 骨もすけ〜と 角や 鬼や〜
出 乙

歳 暮 靈 祭 たいのくれば

白^{ハク}紙^シの^ノ木^キ居^イ日^ヒも^モを^ヲ一^{ヒト} 灵^{レイ} 糸^{イト}

同^{ドウ} 全^{ゼン} 士^シ

裙^{フチ}带^{オビ}菜^ナ刈^カ神^{カミ}事^{コト}

日^ヒウ^ウめ^めか^かり

水^{ミヅ}底^{ソコ}へ^ヘ御^{ミコト}焼^{ヤク}の^ノさ^さや^や 裙^{フチ}带^{オビ}菜^ナ刈^カ

汶^{フチ}上^{カミ}

年^{トシ}籠^{カゴ} こ^こり^りこ

鶏^{トリ}の^ノ若^{ワカ}も^モ志^シま^まる^るに^ニ年^{トシ}こ^ここ^こ里^リ

斗^ツ光^{ミツ}

吹^{フク}か^かる^るは^は二^ニ尺^{シヤク}の^ノ音^ネや^や心^{ココロ}こ^こも^も里^リ

梅^{ウメ}里^リ

年^{トシ}未^ミり^リ里^リ友^{トモ}友^{トモ}の^ノは^はう^う我^{ワガ}れ^れ志^シろ^ろく^く

珠^{タマ}李^リ

寶^{タカラ} 船^{フネ} た^たら^らら

一^{ヒト}艘^{フネ}に^ニあ^あす^す保^ホ松^{マツ}や^や 多^タ く^くり^りの 坊^{ボウ} 亮^{リョウ}

歳^{セイ} 暮^ボ

花^{ハナ}多^タれ^れ竟^{ハテ}や^や 物^{モノ}貴^キに^ニ志^シ 海^{ウミ} 鯉^{コイ}

柳^{ヤナギ} 居^イ

茶^{チャ}ま^まの^ノ間^マ道^{ミチ}を^ヲか^かり^り心^{ココロ} 閑^{カン}

去^ク 漁^{イサ}

冨^フひ^ひと^と松^{マツ}よ^よか^かり^り年^{トシ}法^{ホウ} 養^{ヤウ}

以^イ 秀^{シュ}

あ^あち^ちく^く減^ヘる^る人^{ヒト}か^かり^り心^{ココロ}の^ノ坂^{サカ}

雨^{アメ} 笠^{カサ}

仲^{ナカ}焼^{ヤク}れ^れ急^{イサ}ぐ^ぐぬ^ぬい^いる^るや^や心^{ココロ} 法^{ホウ} 水^{スイ}

茶^{チャ} 伴^{バン}

松^{マツ}枝^エの^ノ心^{ココロ}を^ヲ水^{スイ}に^ニか^かり^り心^{ココロ} 果^カ 水^{スイ}

馬^{ウマ} 光^{ミツ}

乾^{カン}柿^シの^ノ心^{ココロ}も^モ水^{スイ}に^ニか^かり^り心^{ココロ} 果^カ 水^{スイ}

祇^キ 函^{ツツ}

り^り心^{ココロ}に^ニ撞^{ツク}撞^{ツク}を^ヲ心^{ココロ} 果^カ 水^{スイ}

祇^キ 棠^{ドウ}

古今片歌明題集卷之四 四十一

回^{ダイ}を^イ概^イの^イ松^イへ^イト^イウ^イナ^イり^イ年^イの^イく^イれ
さ^イり^イ原^イの^イ皆^イ物^イ骨^イし^イろ^イけ^イる^イれ
お^ユの^コの^ロ鼓^ヤもち^コろ^ロー^コタ^コか^コる^コを

以言
雪叩
西羊

